

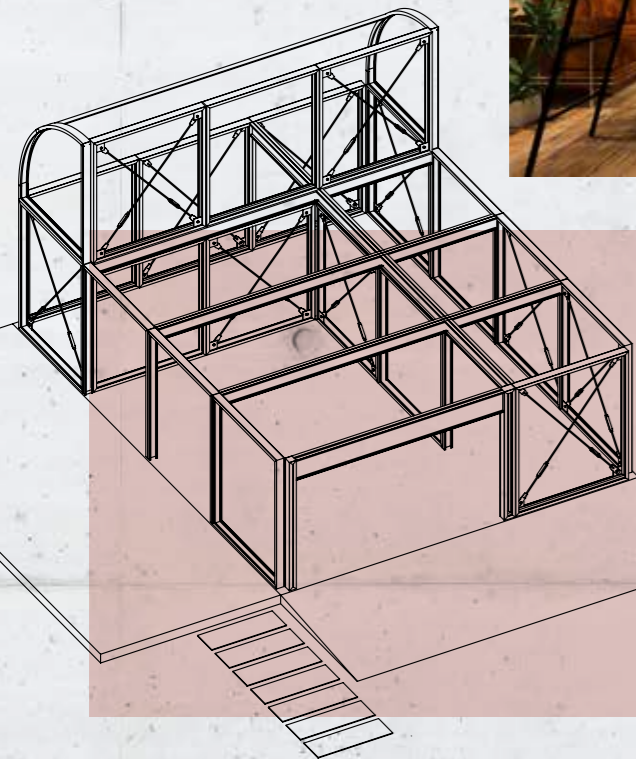


これをベースにプランニング



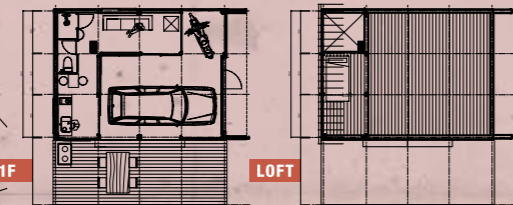
この住宅の原型となっているのは、デイトナハウスの規格ガレージ「GARAGE-D」。外壁は断熱材と一体になったガルバリウム鋼板。スタイリッシュな外観と、長い時間の滞在も可能にする居住性の良さがウリです。内部はもちろん艶消しブラックの粉体塗装鉄骨です。

ガレージ空間と居住空間はデイトナハウスオリジナルのスチール間仕切りで区画しており、トイレ、キッチン、シャワールームといった生活に必要な要素はガレージ奥に配しています。木質系の柔らかな素材を使った居住スペースと、鉄感がムンムンのハードボイルドなガレージのコントラストがこの住宅最大の特徴です。ギア類のディスプレイ次第で、部屋の空間の印象は千差万別に変化する。住まい手の個性がフルスイングで表現できる空間なのです。



これがこの住宅の骨組です。ロフト部分の屋根はお馴染みの「Rスパン」という米軍ご用達の全金属屋根。オプションでウッドデッキを敷いたり、緑化や畑化すれば、屋上スペースが更に楽しい空間に変わること間違いナシ。使い方はあなた次第なのです。

FLOOR PLAN



間取り的にはガレージ&リビングを中心としたワンルーム空間。廊下や玄関、階段や脱衣室といった、既存の住宅ではマストで備えられる要素をあえてそぎ落としてしまうのがこの住宅の特徴。そのことでむしろタイトでハードボイルドなイメージが増幅される訳です。

Theme

最小限ガレージ住宅で考える  
必要にして十分な  
暮らしの可能性

自分の生活に本当に“必要”なことだけをじっくり考えてみると、自ずと住宅作りはシャープになっていくものです。 unnecessaryな機能に溢れた既存の住宅商品にはない、行動派の男性にとっての必要かつ十分な家を作ってみました。



17

PANELS



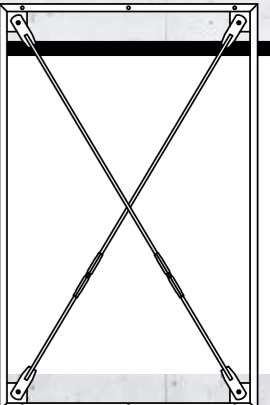
たとえば小屋、バラック、ツリーハウス、コンテナハウス、トレーラーハウスなど世の中で見られるこのようなワイルドなイメージの小さな建築物は法律の枠の外にあることも多いものです。しかし、この家はワイルドなイメージを残しながらも、建築基準法の枠内の基準を満たしたものとして開発しています。つまり、合法的に人間が住めて、耐震性を確保しつつ住宅ローンの対象にもなるのです。

**INFORMATION**  
**LDKinc.**  
デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社 LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。  
代表: 玉田 敦士  
WEB: [www.ldk.co.jp](http://www.ldk.co.jp)  
TEL: 03-6228-4933  
DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP  
[www.daytona-house.com](http://www.daytona-house.com)

大好きなクルマやバイク、そして様々な趣味のギアが格納出来る、さつと食事が作れて、ぐっすり寝れるスペースとシンプルな水まわりがあれば、別にそれ以外の機能は必要ない。男性の中には、そのように考えている人も少なくないかもしれません。でも実際にはそんな住宅がなかなか売られていないのも実情です。  
最小限だけ外観はスタイリッシュで、そこにガレージを備え、しかも構造的にも堅牢で、友達も頻りに遊びに来たくなるような家。今回はデイトナハウスのガレージパッケージ「GARAGE-D」をアレンジして、アクティブ派男性の必要にして十分な暮らしを考えてみました。  
この家の構成はいたってシンプル。クルマとバイクが収まるガレージスペースと、デイトナハウスオリジナルのスチール間仕切りで、区画した最小限のリビングダイニングキッチン、そして小さな寝室だけです。  
このプランで重要なのが、この家はあくまで平屋（1F建て）+アルファとして設計しているということ。だから寝室のある階上のスペースは「2F」として認定されない天井高さ1.4mのスペースです。もし階上があればそれ以上のスペースになり、法的に2Fにされてしまうと、建築基準法では「安全な階段を設置せよ」と言われてしまいます。階段はかならずスペースを取りますので、このような最小限住宅には向いておらず、それを巧みに避ける為のアイデアがこのロフト的な小さな階上というわけなのです。また、平屋であれば鉄骨造でも基礎工事等、構造的な要求が大幅に減るので、コスト面でもスリム化できるというメリットもあります。ちなみにこの家は3×4スパン+3で15坪。坪当たりの費用は概ね50万円からを設定しています。

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽鋼鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材で、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていき一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。



Text/Atsushi TAMADA CG/Shin MATSUMOTO Illustration/Minor BAN (QuhanCO.LTD)